

令和2年度第1回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年10月30日（金） 午後3時～午後4時25分

2. 会 場 市役所（仮設庁舎）3階 委員会室

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：加藤 正明、飯野 朗子、萩原 敏行、小島 奈津子

事務局：【市長部局】佐藤 慎也（理事）、伊藤 浩一（総務部長）、佐藤 則之（政策企画室長）、島田 雅也（政策企画室長補佐）、高木 勇輔（政策企画室主事）
【教育部局】渡部 幸代（教育部長）、原田 卓治（教育部次長学校教育課長事務取扱）、田中 昌継（教育総務課長）、松永 祐希（生涯学習スポーツ課長）、渡邊 浩介（教育総務課庶務係長）、松永 由美子（学校教育課指導係長）

4. 内 容

1 開会

【伊藤総務部長】

ただいまから、令和2年度第1回蕨市総合教育会議を開会いたします。

2 あいさつ

【伊藤部長】

はじめに、頼高市長からご挨拶をお願いいたします。

【頼高市長】

皆さんこんにちは。本日は令和2年度第1回蕨市総合教育会議を開催しましたところ、大変お忙しいなか、そして、コロナ禍という厳しい状況にあるなかでもご出席いただきありがとうございます。また、日頃から蕨の教育行政にたいへんご尽力、ご協力いただいておりますことに市長として感謝申し上げます。

前回の総合教育会議の際には想像が及ばないほど、新型コロナウイルス感染症は世界的な拡大を見せ、市民生活や経済、医療や教育分野へ影響を及ぼすとともに、依然としてその終息が不透明な状況にあります。そうしたなかで、特に教育分野への影響が大きく、3月2日からの全国一斉休校の要請に伴い、蕨市内の

学校においても3か月ほど長期休業を行うといった、前例のない状況となりました。その間、各学校において、慣れない動画作成や子どもたちの支援に取り組んできたほか、家庭においても大変なご苦勞をいただきながら、なんとか学校再開に至りました。再開後は、感染症対策を施しながら長期休業に伴う授業の確保に努める一方、感染症拡大防止の観点から体育祭や文化祭、合唱祭や修学旅行といった行事の中止を余儀なくされている状況です。そうしたなかでも、内容や運営方法を限定的にするなど、各学校において工夫をこらしながら行事に取り組んでいます。先日訪れた東中学校では、学年別で、種目を絞り、保護者の観戦を制限しながらなんとか体育祭が開催されました。その際、子どもたちが元気に走り、懸命に応援する姿を目にし、あらためて、当たり前だと考えていた光景が尊いものであったということを私自身も実感したところであり、同様の思いは全国にも広がったのではないのでしょうか。

そうしたなか市では、市民に一番身近な自治体として、第1弾から第3弾までの3回にわたって蕨市新型コロナ緊急対策を打ち出し、これまで取り組みを進めてきました。そのなかでは、ひとり親家庭の皆さんに独自に給付金を支給したり、妊婦のかたが外出時にタクシー等で活用できるマタニティパスを交付したりといった支援を行ってきました。さらには、全家庭への家計支援として、水道料金の基本料金4か月分を無料としたほか、売上げが減少した小規模企業への2回の応援金の支給や、Pay Pay株式会社と連携して消費拡大喚起を図るといった、さまざまな支援に取り組んできました。教育分野においては、教科書に準拠したワークブックを全生徒に配布したり、オンライン学習を見据えた1人1台のパソコン端末の前倒し整備を進めたりしてきたほか、児童・生徒の学習支援を行う学習指導員や、教員の補助や校舎消毒などを行うスクール・サポート・スタッフの各学校への配置を進めてきました。さらに、文化的な支援として、イベント等の中止を受け、活動の場を制限されている市内の文化芸術の担い手を支援するとともに、市民の皆さんが文化芸術活動に触れる機会を提供するための動画配信などに取り組んでいます。また、秋から冬にかけてのインフルエンザとの同時流行への備えとして、県の支援も受けながら高齢者等インフルエンザ予防接種無償化や、医療体制の充実に向けた準備も進めています。

さて、先ほど申し上げたとおり、本日の議題である学校ICT環境の整備による児童・生徒のICT活用能力の向上について、新型コロナ緊急対策として1人1台のパソコン端末の前倒し整備を今年度中に実施することにいたしました。これは、元々、情報処理能力が基礎的な学習能力の一つとして位置づけられていることから取り組みを進めていたものですが、前倒し実施となったことからその対応についていっそう重要度が増しているところです。これまでもICTについては意見交換を行っており、私としてはICTの活用能力の向上自体も

たいせつなことだと考えますが、ICTの活用やその能力向上を通じて、子どもたちの生きる力や学力向上に資することこそが大事ではないかと考えています。今年は蕨市教育センター内に環境整備を行ったことから、先生がたの研修等も含めてしっかりと対応していきたいと思いますが、なにより子どもたちの未来にとってたいへん重要なテーマであることから、ぜひ忌憚のないご意見をいただき、子どもたちの成長につなげていきたいと考えています。

最後になりますが、元蕨市教育委員で女流棋士の中井広恵さんが13年ぶりに女流タイトル戦への挑戦を決め、最年長の挑戦者ということで話題となっています。さらには、蕨市出身の竹下凌矢さんが、15歳で囲碁のプロ棋士となることが発表されました。竹下さんが塚越小学校に在学していた5年ほど前に、全国大会で優秀な成績を収めて市役所に報告に来てくれたことがあります。このたび、晴れてプロになられたということで、若手からベテランまで皆さんがんばっておられ、本当に素晴らしく、うれしく思います。

本日の総合教育会議が、蕨市の教育の推進にとって有意義な会議になるよう教育委員の皆さまのお力添えをお願いいたしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3 議題

【伊藤部長】

ありがとうございました。それでは、要領第3条の規定に基づき、会議の議長を頼高市長にお願いさせていただきます。

市長、よろしく願いいたします。

(1)「学校ICT環境の整備による児童・生徒のICT活用能力の向上」について

【頼高市長】

それでは、議題(1)「学校ICT環境の整備による児童・生徒のICT活用能力の向上」について事務局より報告をお願いします。

【原田教育部次長】

学校教育課から「学校ICT環境の整備による児童・生徒のICT活用能力の向上」について、「小・中学校におけるICTの活用のこれまで、及び、これからの取り組み」、そして、「今後の課題について」の3点説明させていただきます。

まず、『小・中学校における、「これまで」のICTを活用した取組』についてですが、今年の3月2日からの臨時休業に伴いまして、児童・生徒の学びの保障のために大きく5つの取り組みを進めました。

1点目が学習動画の配信で、市内小・中学校合わせて224の動画を配信しました。一例では、中央小学校で新1年生向けに生活の決まりごとを伝える動画を配信しましたが、間違い探しのかたちで学べる内容だったり、職員自らが出演したりする等、工夫されています。そうした動画を含め、224の動画については、児童・生徒や保護者の皆さんから「分かりやすかった」、「入学前に校内の様子を見ることができ、楽しみになった」という感想をいただきました。

2点目はオンライン学習システムの活用です。市ではこれまで、中学校では平成27年10月から、小学校では平成29年3月から「eライブラリアドバンス」という、対面学習及びドリル学習を中心とした、教科書準拠の学習ソフトを導入しておりました。このたびの長期休業に伴い、全児童・生徒へIDやパスワードを配布し、各家庭においてもオンラインで学習できる体制を整えました。小学校では全児童の半数以上が利用、中学校でも、学年差はありましたが、概ね半数以上の生徒が利用していたとの報告がありました。また、このソフトは児童・生徒一人ひとりの活用状況が分かるようになっており、臨時休業中においても子どもたちの学習状況について進捗を把握することができました。

3点目は「まなびポケット」という連絡ツールの活用です。ID・パスワードを保護者へ配布し、電話以外にも保護者と学校の双方向での連絡が可能となりました。学校からのお知らせや学校だよりの掲示ができるようになったほか、学校によっては教育相談にて活用した例もあったようです。

4点目は家庭におけるインターネット環境調査の実施です。実施に当たっては「Google フォーム」というソフトを活用してオンラインでアンケートを行い、5日間で4,216人分のご回答をいただきました。

5点目はICTにかかる教職員研修の実施です。先ほど申し上げた各ソフトの活用方法や、動画の作り方、配信方法等についての研修を2回行いました。

以上が臨時休業期間中における取り組みですが、6月の学校再開後におけるICTの活用にかかる取り組みについても報告いたします。

1点目は、Googleのサービスである「G Suite」(12月1日現在は、「Google Workspace」に改称)の活用についてです。全児童・生徒、教職員、教育委員会や教育センターの職員に同サービスのIDとパスワードを配布しました。活用例については後ほどご紹介いたします。

2点目はオンラインによる研修会等の実施です。1点目のG Suiteのサービスの一つとして、「Google Meet」というビデオ会議ツールが活用できるようになりました。これによって、オンラインによる会議や研修を実施できるようになり、定例校長会や主任研修等において活用してきました。

3点目も同じくG Suiteのサービスの一つGoogle フォームを活用した、遅刻・欠席連絡フォームの作成についてです。コロナ禍において、連

絡帳の授受を行うことはどうかといった保護者のかたのご意見をきっかけに取り組んだ事例ですが、このフォームを使用することで遅刻・欠席に関する連絡がオンライン上で行えるようになり、現在、一部の学校で使用されております。

4点目は保護者向けアンケートの実施です。先ほど紹介したまなびポケットやGoogle フォームを活用し、これまで紙ベースで行っていたアンケート等をオンラインにて実施しました。これによって簡単に素早く回答できるだけでなく、集計作業が楽になるなど、保護者の皆さんにとっても、学校にとっても好評な取り組みでした。

5点目は「Google ドライブ」における教材や指導案等の共有についてです。Google ドライブはファイル共有等が行えるストレージサービスで、これを活用して教員が必要な資料を、必要な際に入手できるようにしました。

6点目はオンラインによるゲストティーチャーとの遠隔授業の実施です。これは7月22日に中央東小学校で実施した授業で、例年、社会科の授業のなかで3年生の児童が市役所等を訪問し、職員にインタビューを行う取り組みについてオンラインで実施した例です。この際、市民活動推進室や学校給食センターの職員にインタビューを行いました。なお、直近では11月24日に、西小学校の児童が農家のかたにオンラインでのインタビューを実施する予定です。

7点目は外部からの支援を活用した授業についてです。10月16日に中央小学校で授業公開があり、この際、5年生を対象に実施された授業で、内容は目的地まで英語で案内することをテーマにしたものです。授業では「アリロ」というロボットが使用され、子どもたちは英語で道案内するグループと、聞き取った案内をアリロにプログラミングで指示するグループとに分かれ、アリロが地図上の目的地までたどり着けるかを確認しました。外国語やプログラミング、社会について、楽しみながら学びを深めることができました。なお、授業に当たっては、富士電機ITソリューション株式会社に事前準備から当日の支援等にいたるまでご協力をいただいたほか、実践例として授業の様子を資料にいただき、資料はGoogle ドライブを介して全教員に共有されています。

8点目は支援担当学校訪問における「Chromebook」、Google フォームを使用した教職員への指導及び研修です。教育委員会の指導主事による各学校への指導等の際に、今後市内の小・中学校において導入が見込まれているChromebook 端末を先行的に使用しています。また、Google フォームを活用して各校に研修後のアンケート等を実施しています。

最後に9点目は、G Suite及び「schoolTakt」活用研修についてです。G Suiteについてはこれまでの説明のとおりですが、さらに今後活用が見込まれる学習支援ソフトschoolTaktについても、現在、外部講師を招き、使用方法等について研修を通じて学んでいるところです。

続いて、大きな2点目『小・中学校における、「これから」の効果的なICTの活用に向けて』について説明させていただきます。

初めに「GIGAスクール構想」についてあらためて確認させていただきます。GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの頭文字をとったものです。「すべての人にグローバルで革新的な入口を」という意味となっており、GIGAスクール構想は多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人ひとりに個別最適化された、創造性を育む教育ICT環境を実現するという施策です。お手元には『教育わらび9月号』をご用意いたしました。紙面では「わらびの教育DX（デジタルトランスフォーメーション）を実現!!」と題して、GIGAスクール構想にかかるこれからの藤市の取り組みについて広報しております。こうした取り組みをもとに、今後、次の3点の施策を進めていきたいと考えています。

1点目は大型TV及び教師用デジタル教科書、QRコードの効果的な活用による基礎学力等の習得の効率化です。新学習指導要領の全面実施に伴い、改訂された教科書の多くにおいては、読み込むことで学習の参考となる情報を閲覧できるQRコードが記載されています。そのほか、教師用の指導書等の多くがデジタル化されており、こうしたICTツールを効果的に活用して子どもたちの基礎学力等の習得の効率化を図っていきたいと考えております。

2点目はICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適化による学習者中心の学び」の実現についてです。ICTを効果的に活用することで、子どもたち同士が容易に意見交換や共同学習できる環境を構築することが可能となっています。さらに、宿題等の課題配布や、児童・生徒の学習理解度の把握も行いやすくなるため、子どもたちに寄り添いながら授業を進められます。そのほかにも、学習履歴の蓄積、可視化ができ、個々の特性や進捗に合わせた学びの提供が可能となるため、学習者中心の学びの提供につながられます。先ほどのschoolTaktは他者の意見を閲覧できたり、子どもたち同士がコメントの交換ができたりし、こうした取り組みへの有効活用が見込めます。

3点目はオンラインでの双方向型授業です。望まない事態ですが、万が一、長期臨時休業が再びある際に学びを止めないためにも、双方向型授業の実施が可能となりました。先ほどご紹介した遠隔授業をはじめ、小・中学校間での取り組みや、将来的には海外の子どもたち等との交流授業も視野に入ってくるため、さらに社会に開かれた教育課程の実現に向けて取り組みを進めていきます。

これらのほかにも、教育センターにICT環境が整備されていることから、今後、同センターの日々草学級に通う不登校児童・生徒が、学校の一部の授業等に参加することも可能となります。

最後に、大きな3点目「児童生徒のICT活用能力を向上させるための、今後の課題」について説明させていただきます。

先ほどお伝えした、今後の蕨市のGIGAスクール構想実現に向けて、教育委員会としては三つの課題があると考えております。

1点目はインターネット環境がない家庭への支援です。5月に実施したアンケートによりますと、全家庭の約1.8%、100人弱の児童・生徒のご家庭にインターネット環境が未整備であることが分かりました。1人1台の端末整備については令和2年度中に完了する予定となっておりますが、インターネット環境がない場合には機能を発揮しません。この課題については、引き続き対応策について検討をしているところであり、さらに、長期的な視野で考えると、今後インターネットを利用して課題配布等を実施する際に支障があることから、あわせて検討していきたいと思っております。

2点目は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的なICT活用研修です。効果的なICT活用例としては、自己の考えを整理する場面、他の児童・生徒に意見を共有する場面、説明時に資料を展開する場面等での活用が想定されます。こうした活用については、先進事例を参考にしながら研究していくとともに、ICTに強い教員による学校ICTにかかる授業研究の実施も考えています。今後は、子どもたちにとってパソコン端末が一つの文房具として、意識することなく日常の教育で用いられることが重要だと考えており、そのために必要な教員の研修についても取り組んでまいります。

3点目はICT支援員の配置及びICT支援員による教員へのサポートです。さらに加速していくICTを活用した授業の実施に当たり、ICT支援員の配置は必須であると考えています。また、人材の活用という点で、ICT支援員には授業の支援だけではなく、教員向けのICT研修の実施、端末に不具合が発生した場合の修理依頼の実施等もしていただくことを想定しています。

変化が激しく、予測の難しい社会に生きる子どもたちにとって、教育におけるICTの効果的な活用により、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、一人ひとりに個別最適化された学びや、創造を育む学びの実現につながるが大いに期待されています。全ての子どもたちが日常的にパソコン端末を使用して学びを深めること、また、Society 5.0時代に活躍できるわらびっ子の育成のためにも、教育委員会として最善を尽くしてまいります。

以上で、説明は終わりです。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さんよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【飯野委員】

ご紹介されたうち、いくつかの例を学校訪問の際に目にしました。

道具を「使う」と「使いこなす」は別物だと思っており、「使う」のみにこだわって取り組むと、内容が伴わないものになると考えます。まずは、先生たちがICTツールを使いこなして授業を行うことが重要だと考えますし、子どもたちが使っているのか、それとも使いこなせているのかの見極めがたいせつだと思います。相当大変だなという感想を抱きましたが、外部の支援を十分に求めて取り組んでいただきたいと思います。

【萩原委員】

飯野委員のご意見とまったく同感です。

例えば、会議のパワーポイント資料や、紹介された動画の作成に当たっても、教員の皆さんのがんばりが伝わりますが、「使う」ことにとらわれていないでしょうか。さらには、GIGAスクール構想における教員負担も気になっています。私自身も大学でG Suiteを使用し、オンラインで授業を行ってきました。教員によっては効果的だという認識もあり、私もモチベーションの高い学生にとっては効果的だなと感動したところです。一方で、モチベーションの高くない学生との学力差がかなりついたことから、困った経験もあります。説明のなかで個別最適化ということが語られていましたが、教員が個別に子どもたちの対応を行うということは相当に大変ではないでしょうか。大学では50人の学生が講義ごとにコメントをくれましたが、その返答をすることはかなりの負担に感じました。通勤をする必要がなくなりましたが、それ以上の時間を割き、場合によっては朝方まで対応をしたほどです。このように、ICTの活用を通じて学校の事務が楽になる、教員の負担が減るといった憶測は甘いと感じています。

さらに、教員の皆さんが教材や指導書を共有しやすくなったお話がありましたが、これによって指導案を形だけまねて、内容の伴った授業ができない先生が増えることにならないかなという不安があります。これまでも、教科書会社が出す資料をそのまま伝え、子どもの学びを深められない先生は全国的にいらっしゃったと思われますが、優れた指導案が必ずしも全ての先生にとって優れているわけではないと考えます。まさに「使いこなす」ことが大事だなと思いました。

また、データのやり取りを行う際のセキュリティの課題や、動画作成に当たってはプライバシーの問題もあると考えられます。加えて、ICTの活用により、入手する情報量が増えることになるとは思われますが、その取舍選択も重要です。

以上のような点や自身の経験を踏まえて、教員の皆さんや子どもたちは相当大変になってくるなと考えるとともに、さまざまな可能性がある一方で、取り組み方がかなり難しいという感想を抱きました。

【加藤委員】

私もICTを活用した小学校の授業を目にしましたが、その際、グループ活動では一人の子どもがICTに強ければ、グループ全体の活動が成立してしまうんだなという気づきがありました。一人ひとりの力を育むという点では、どうなのだろうかという思いを抱いています。子どもたちの意見をどのように受け止め、どのように返していくのかという点は工夫が必要だと考えますし、一方で、一対一の対応を行うにしても先生たちの負担増が気がかりです。

また、各家庭の環境の差によって、埋もれてしまう子どもがいないかという不安があり、全員の環境を整えてから取り組んでいただきたいと考えます。失敗をしながら新たな挑戦をしていくことは大事ですし、一方で理想に近づけていくことも重要です。状況の移り変わりが早い分野ですが、バランスをとりながら施策を進めてください。その際、とりわけセキュリティが大事な取り組みになると思いますので、その点には特に気をつけていただきたいと思います。

【小島委員】

皆さんのお話を伺いながら、教員の皆さん、保護者や子どもたちの両方の立場について思いを抱きました。

教員の友人がおり、対面では質問が出ないのにオンラインになった途端、個別の質問が多く届くそうです。その対応だけで、教材づくり等を行う余裕がないほど忙しいそうで、どのように自身の時間を確保するか厳しいものがあると察するとともに、子どもたちには聞きたいことが意外と多くあるんだなと感じました。今回のコロナ禍やICTの推進のなかで見えてきたものとも言えますね。

一方で、保護者の立場としては、「あの学校はオンライン授業をやっているけど、うちはやっていない」、「〇〇小学校は動画が充実しているのにうちにはない」というような不安感が、この間広がっていたように感じています。子どもたちについても、オンライン授業を自宅で受ける際は、ある程度リラックスしながら漫然と授業を受けた気分になっていたり、学校再開後に先生に触れ合った際には、「コロナで大変だったね、大丈夫だった？」というようなひと声がなかったという意見があったりという話も聞いています。

ICTの推進に当たっては、皆さんが仰られたようにツールの使い方が重要だと考えます。なかには対面したり、触れ合ったりすることで分かることもありますし、アナログ的な取り組みが大事なこともあり、これらの両立が求められます。とある教材メーカーでは、これまで紙の教材で支援していた学習について、現在は紙版とWeb版の教材を選べるようにしているそうですが、漢字の書き取り等をWeb版で取り組んでいると筆圧が入らないそうです。こうした点からも、やはり新たな技術やツールの活用とともに、アナログな取り組みのバランスに気をつけながら、双方向から改革を進めていってほしいなと思います。

【萩原委員】

蕨市では、市長のもとでアウトメディアの施策に力を入れてきたと考えます。これまで進めてきたアウトメディアと矛盾がないように取り組みを進めることで、小島委員が仰ったバランスが取れていくのではないかと思います。

【松本教育長】

コロナ禍において、一気にICTの取り組みが推進されています。ただ、いざICTが用いられている授業を振り返ると、全ての場面でICTを使う必要があるというわけでもないように思います。やはり、先生と子どもたちが相対したり、話し合ったりすることがたいせつだと感じていますので、ICTを上手に活用しつつ、そうした点に気をつけながら取り組んでいきたいと考えます。

教育委員の皆さんにご心配いただきましたように、今回の会議資料の作成に当たっては学校教育課の職員たちは大変な思いをしておりましたが、率直に申し上げて、ICTの活用については良い点が数多くあります。ただ、使い方にとられすぎて本筋を見誤ることがあってはならない点に気をつけるとともに、今年度は1人1台のパソコン端末整備が前倒し実施されますので、各家庭における環境の違い等の課題については十分に留意しながら、大いに活用していきたいなと思います。

【頼高市長】

委員の皆さんにおかれましては、学校訪問等を通じて現場を見ていただいたり、それぞれのお立場や経験を踏まえていただいたりと、議論のなかでは今回のテーマに関する非常に大事なところをご指摘いただいたと感じています。ありがとうございました。

これからICT環境の整備を進めていくなかで、正に使いこなすということが相当大変だろうと思いますし、学校現場においては真価が問われる時代であると考えます。今、ご意見をいただいた個別最適化への対応、セキュリティの課題、アナログとの共存等といった点を大事にしながら、取り組みを推進していく必要があると思います。また、これからも学校訪問等を踏まえ、定例教育委員会等のさまざまな機会を感じた点をご指摘いただき、その対応や実践を通じて、蕨市の教育委員会が文字どおり上手にICTを使いこなし、子どもたちの支援となるだけでなく、教員の負担軽減も含めた取り組みにつなげたいと考えますので、委員の皆さんにおかれましては今後ともよろしく願いいたします。

特に、アナログとの共存については、想像力や論理的思考をはじめ、アナログの取り組みであるからこそ高まる、育つ能力があると考えます。筆圧の点についてもそのとおりだなと感じましたし、私も昔から考える前に手を動かす習慣があり、体を動かしているとひらめきが生まれてくるものです。こうした要素を大事にしながら、ICTの強みや良さを生かしつつ、推進していきたいと思います。

(2) その他について

【頼高市長】

次に議題の(2) その他について、事務局から何かありますか。

【佐藤政策企画室長】

2点ほど報告したいと思います。

まず、令和2年度の児童・生徒の活躍について、学校教育課より報告させていただきます。

【原田次長】

児童・生徒の活躍について報告いたします。

資料にあるとおり、第一中学校、第二中学校、東中学校の各部活において、県大会に出場が決定したところです。なお、第二中学校のソフトボール部については、県大会を終え、結果としては3位の活躍をしました。また、第一中学校2年生の今井さんは水泳・男子400m自由形で第1位の好成績を残しました。

今後も県大会が順次開催されますが、上位入賞を期待したいと思います。

【頼高市長】

そのほか、何かありますか。

【佐藤室長】

続いて、令和3年に開催される「第75回成年式」について生涯学習スポーツ課より報告いたします。

【松永生涯学習スポーツ課長】

第75回成年式につきましては、新型コロナウイルスの感染防止策を講じつつ、来年1月11日に開催を予定しております。

会場の入場者数を少なくするため、午前と午後の2部制とし、原則、1部は第二中学校と東中学校の卒業生、2部は第一中学校と、私立などその他中学校の卒業生を対象に実施いたします。式典では国歌や市歌斉唱はCD音源によるものとし、また、ご祝辞をいただくかたの人数を減らして時間を短縮するなどの対応を見込んでいます。ただし、新成人の門出を祝う式典ですので、蕨市にゆかりのある4人の著名人の皆さんよりお祝いメッセージをいただくほか、新成人の思い出の写真をスライドショーにまとめた動画を披露する予定です。さらに、記念品として蕨ブランドである双子織の名刺入れをお贈りする予定となっております。

【頼高市長】

それでは、ただいまの児童・生徒の活躍及び成年式の説明について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いします。

【小島委員】

成年式について、2部でその他中学校の卒業生が対象となっていますが、例えば、北小学校卒業後に私立中学校に進学したかたは、地域の友人が第二中学校に多いと思いますが、その場合1部に参加したいと考えられます。そうした場合は選択できるのでしょうか。

【松永課長】

出席予定者からも同様のご質問をいただいております、原則、そのように配慮したいと考えています。

【頼高市長】

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤室長】

次回の会議テーマと日程の提案でございますが、「令和3年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、2月頃に開催することを提案させていただきますが、いかがでしょうか。

【頼高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期、議題等について提案がありました。が、いかがでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、次回の開催については、「令和3年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、2月に開催することといたします。

【佐藤室長】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆さまにご確認をさせていただき、要領第6条の規定により、公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

【頼高市長】

それでは、以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。